

青年のひとりごと

現在、特急列車の車掌に義務付けられている英語肉声放送について、多くの方が疑問を感じながらも、「決まりだから」と仕方なく行っている印象です。ところで、私は、この「決まりは守りましょう」という言葉に対して、ときに違和感を覚えます。今回の英語放送に関して言えば、これは、会社が現場の声も聞かず勝手に決めたもので、フェアではありません。また、これまで英語を使う機会がなかった私たちが、急に喋れと言われても、たどたどしい英語しか喋れません。このとき、各職場では、必ず、業務改善のために英語を「自主的」に学びましょうといった動きが出てきて、「自分の時間」で「勉強会」が開かれたりもします。これは、一見素晴らしいことのようにも思えますが、そもそも、英語の肉声放送を義務付けてきたのは会社側です。だとしたら、私たちが必要最低限の英語が使えるよう、会社が「コスト」をかけて研修の機会を設けるのが本筋です。にもかかわらず、これを、私たちの「英語力」の問題として捉えてしまった場合、「自信がないなら、自分の時間を“有効活用”して仕事に備えるべき」といった詭弁がまかり通ることにもなります。「決定事項に何を言っても同じ」。この考えは改めなければいけません。なぜなら、「疑う」ことを拒否して一時的に「楽」が出来ても、それは後々、「能力のない私が悪い」と思わせられる形で自分に返って来るからです。

当面する行動

○12月5日(月)16:00～解放共闘幹事会 天神ビル

○ " 17:00～解放人権週間街頭行動

天神ソラリア前